

企業名： 大阪瓦斯株式会社

---

レポート名： 大阪瓦斯株式会社 統合報告書 2022

---

## 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

大阪瓦斯株式会社（以下大阪ガスとする）が目指しているものとして、以下のようなものがある。まず、低・脱炭素社会の実現である。CO<sub>2</sub>排出削減貢献により低炭素化を加速させつつ、都市ガス原料や電源の脱炭素化により、2050年のカーボンニュートラルに向けて挑戦し、低・脱炭素社会の実現を目指すと記されている。次に、New ノーマルに対応した暮らしとビジネスの実現である。顧客のライフスタイル・ビジネスモデルの変化に寄り添い、顧客ごとに最適なサービス・ソリューションを関西・国内広域・海外へ展開することで、変化の中でのNew ノーマルに対応した暮らしとビジネスの実現を目指すと記されている。最後に、顧客と社会のレジリエンス向上である。安定供給のためのサプライチェーンにおけるインフラの強靱化とともに、分散型電源などと組み合わせたエネルギーネットワークの普及拡大を進め、平時および災害時のさらなるレジリエンスを向上し、さらに国内広域・アジア等の新興国においても広く貢献していくことを目指すと記されている。

低・脱炭素社会の実現という目標について考える。私はこの目標に対して賛成である。世界が環境問題に関心がいま、低・脱炭素社会の実現という目標を掲げることによって、大阪ガスの社会的評価を挙げることができる。また、今注目を集めているSDGsの目標も同時に五つかなえることができ、企業の社会的責任を果たすことができる。大阪ガスは強みとして、再生可能エネルギー電源の開発・運営ノウハウや競争力のあるLNG調達・シェールガス開発実績などがあるため、この目標設定は無理のあるものではないと思われる。

New ノーマルに対応した暮らしとビジネスの実現という目標について考える。私はこの目標について疑問に思うことがある。顧客のライフスタイルや働き方、ビジネスモデルに合わせてカスタマイズをしたソリューションを提供するということには理解できるが、国内広域・海外に事業を展開していくことに疑問を感じる。関東で主に利用されているガス会社は東京ガスである。東京ガスを除いても、静岡ガスなどの会社があるため、大阪ガスが入る余地はないと思われる。海外においてもその国に元からあるガス会社が圧倒的に有利と考えられるので、国内広域・海外に事業を展開することは難しいと考えられる。

顧客と社会のレジリエンス向上という目標について考える。私はこの目標に対して賛成であり、そして、ある程度すでに実現しているのではないかと思う。私の出身は大阪である。五年前に大阪北部地震が起きた際、ガスはすぐに復旧し、ライフラインにさほど影響がなか

ったことを記憶している。しかし、いつかは来るだろう南海トラフに備えてさらなる防災対応力を高める必要があると思われる。

## 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

大阪ガスには競争優位性はあると思われる。まず、創業が1897年で、ガスの提供を始めたのが1905年という長い歴史をもって、顧客からの信頼をかなり得ている。また、LNG調達・シェールガス開発の実績においても、競争性がある。大阪ガスは2019年日本企業として、初めてアメリカのシェールガス開発会社を買収した。さらに、社会や働く環境の激変、顧客の価値観の変化に合わせるために、「変わり続けられる企業グループ」を目指している。そのために、デジタル技術を積極的に事業に取り組み、革新的なサービス創造やデータマネジメントの進化、業務プロセスの変革を加速させている。

順位	企業名	売上高（億円）
1位	東京ガス	21451
2位	大阪ガス	15868
3位	東邦ガス	5153
4位	西部ガス HD	2152
5位	日本瓦斯	1625

※業界動向サーチより引用

上記のグラフからもわかるように、大阪ガスは東京ガスよりは低いものの、全国で二位という売上高を誇っている。また、三位と比べても大きな差がある。東京ガスの主な顧客が関東で、大阪ガスは関西である。関東の人口が関西の二倍もあることを考えると、この売上高の差は仕方のないものだと考えられる。さらに、利益率でみると大阪ガスは東京ガスを抜き、一位である。これらのことから、大阪ガスは競争優位性があると思われる。

## 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

大阪ガスの競争優位性には持続性があると思われ。しっかりと機会を活かし、国内外における再生可能エネルギー電源開発と販売拡大を行っている。また、リスクである災害に備えて、供給ブロックの細分化やポリエチレン管の普及促進を行うなどしっかりと対応している。これらの点から大阪ガスはこれからも競争優位性があると思う。しかし、気になる点として、研究開発費の減少である。2017年と比べ、2021年の研究開発費は7億円近く減少している。再生可能エネルギーの分野における競争が激化している今、研究開発費を減少させると将来の減益につながるのではないかと思った。

## 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

大阪ガスでは自身の人的資本の価値向上を達成できると思われる。大阪ガスは企業グループとしてのステージ向上のための重点取り組みとして従業員一人一人の価値の最大化を挙げている。多様な人材が多様な働き方を通じて活躍し、“挑戦を通じた成長”と“社会課題解決を通じたやりがい”を実感できる組織づくりを推進している。また、挑戦を歓迎し、失敗を許容するチャレンジ文化の向上も目指している。2021年度では従業員一人当たりの年間

平均研修時間は 28.6 時間で、e-ラーニング（保安、情報セキュリティ、環境等）においても、1 講座あたり 5226 人、受講時間は一人当たり 4.5 時間である。さらに、本人の適性や希望も踏まえ、多様な職場において女性社員が活躍している。仕事と育児が両立できる環境の整備やキャリア教育の実施等の取り組みが評価され、2021 年度「なでしこ銘柄」に選定された。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

大阪ガスの報告書の良かった点として、長期経営ビジョン・中期経営計画の報告書を見なくても、そこに記載していることを簡潔に報告書に書いてあって、見やすかったことが挙げられる。また、所々にグラフや図を挟むことで、わかりやすく伝えている。さらに、毎ページの上に目次をつけることで、今どの章を見ているかがわかるようになっている。

改善点として、1 ページに多くの情報を詰めている点が挙げられる。文字が小さくなっていることが多く、拡大しないとみることができないものが多く、見にくかった。

#### 参考文献

業界動向サーチ 最終アクセス日 2023年7月25日

<https://gyokai-search.com/4-gass-uriage.htm>

大阪瓦斯株式会社 統合報告書 最終アクセス日 2023年7月26日

[https://www.daigasgroup.com/files/data/sustainability/reportpolicy/integrated\\_report/report2022\\_all\\_interactive.pdf](https://www.daigasgroup.com/files/data/sustainability/reportpolicy/integrated_report/report2022_all_interactive.pdf)

大阪瓦斯株式会社 ホームページ 最終アクセス日 2023年7月26日

<https://www.daigasgroup.com/rd/cost/>

大阪瓦斯株式会社 プレスリリース 最終アクセス日 2023年7月26日

[https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr\\_2019/1281330\\_40360.html](https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr_2019/1281330_40360.html)